

令和2年度各会計決算 に対する各会派等の 意見表

意見表(要旨)

自民党豊島区議団

令和2年度一般会計及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。

本決算はコロナ対策の展開により過去最大の決算額となったが、扶助費が過去最大となる一方、投資的経費を大幅に削減するなど、引き続き、財政の健全性を維持した決算であると評価。個別に意見を述べる。旧平和小複合施設には防災機能の充実を。防災士については、資格取得費用全額補助の検討を要望する。終活サポートについては、積極的な事業展開を。介護施設整備については、区内での介護医療院整備を要望する。喫煙所設置については、非喫煙者に迷惑がかからない仕組みづくりを。スポーツ・体育については、学校開放の利用時間拡大の検討を。学校長寿命化計画については、仮校舎地への区有施設活用や学校の高層化など、大胆な発想で改築を進めるよう要望する。

公明党

令和2年度一般会計、3特別会計決算の認定に賛成以下、款別意見と要望

●SDGs推進は区民、企業を含むオールとしまで展開 ●区職員の健康増進の為に鍼灸体験等を福利厚生に導入 ●環境浄化パトロール、防犯カメラ設置、振り込め詐欺の撲滅推進 ●個別避難計画は町会と十分な連携を ●育児休業の推進で女性の負担軽減 ●女性の健康支援センターの設置と女性健康手帳の作成・配布 ●地域猫活動ボランティアへ支援等 ●環境整備 ●CSWの12圏域への拡大 ●終活支援事業のメニューの拡充 ●ひきこもり支援の重層的支援体制整備事業の有効活用 ●成年後見制度推進の為に、社会福祉協議会の充実 ●子宮頸がん予防ワクチンの正確な情報提供 ●子育てファミリー世帯の定住化の為に家賃補助メニューの拡充 ●子どもの意見表明制度の取組 ●無料学習支援団体へ更なる支援 ●通学路、学校の十分な安全対策 ●「子ども発達支援センター」の早期設置 ●マンガ・アニメの取組に「ハレザ池袋」の活用 ●「そめいよしの記念館」の創設

都民ファーストの会民主

令和2年度一般会計及び3特別会計の決算認定に賛成。過去最大の決算額となったが、投資的経費は前年度比で大幅な減となり、財政の健全性を保持した決算と評価。今後もコロナ禍の影響には最大限留意しながら、財政運営の舵取りを。

款別に見ると、防災については、職員と区民が顔を合わせる場を増やすよう要望。また、IKEBUSを活用した小さい子どもも参加しやすい防災訓練の開催を。竣工予定の施設の進捗状況周知と、今後進めるプランに区民の意見を取り入れることを望む。ひきこもり相談窓口と聴覚障害者の電話リレーサービスの周知徹底を。池袋駅周辺駐車場整備計画は、地元関係者と丁寧な協議を行い快適な歩行者空間の創出を。コロナ禍により大きな影響を受けている商店街の支援を。トキワ荘マンガミュージアムの内容充実と、南長崎地域にマンガの聖地があったことを国内外に引き続きアピールしていくことを求める。今後も、これまでの貯えを適切に活用し、先を見据えた財政運営を推し進めることを要望する。

日本共産党

2020年度一般会計決算並びに3特別会計決算の認定に次の理由で反対。

第一に深刻な区民生活を直視し、区民需要を最優先していない。中小企業に対するの直接支援や住宅困窮者対策が不足。コロナ対策では、子ども関連施設、障害・介護施設へのPCR検査を拡充したが全体では不十分。余裕のない生活保護世帯へのエアコン設置補助は拡大が必要。区立保育園の民営化ではなく、公的保育に注力すべき。

第二に大企業と求街者のためのまちづくりを優先し区民が置き去りにされた。多額の税金を使い区民を追い出す市街地再開発事業は認められない。更に、身近な公園の改善は進まない。

第三に自治体本来の役割を果たす上でひきこもりが起きている。老朽化した学校改築や要望の強い特別養護老人ホームについて先送り。一方、イケバスなど外から人を呼び込むまちづくりに多額の税金をつぎ込んだ。保険料など負担増の国民健康保険、後期高齢者医療制度の改善が続く介護保険の3特別会計も認められない。

無所属の会

コロナ禍により以前よりあった問題が可視化された。特に経済問題は深刻。厳しい区民生活を強いられる区民の目線から質疑した。

後期基本計画にSDGsの視点を入れて政策を再構築したことは評価するが、これまでと同じやり方では令和7年度までにゴール達成できないという危機感を持つべき。「くらし・しごと相談支援センター」の対応相談件数は2万件を超えた。「ひきこもり」相談も増加。区民の生活や命を守る重要なセーフティネットであり、体制整備を強化するために正職員の増員配置を。羽田からの飛行騒音に悩む声がある。引き続き区独自の騒音測定が必要。環境悪化があれば、区民に寄り添い国に強い態度で申し入れを。高田地区の公立保育園改築、小学校別棟建設案に地元は戸惑いがある。学校は地域の公共財。改築にあたり丁寧に説明をし「良いものを一緒に作る」住民参加型で交流都市については、認定委員会を組織し、区民へのメリットについて再考を。

立憲としま

令和2年度一般会計及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。

新型コロナウイルス感染症の影響により今後の歳入についての見通しが困難な一方、格差は拡大しており、今後さらなる歳出増が予想される。そのため、計画事業においては、その事業を行うことにより、区民の利便性や満足度の向上になるかという点から評価・判断する必要がある。

決算審査にあたっては、事業の目標設定や評価を中心に、今、本当に求められているものは何かという視点をもち、ICTの推進による業務の効率化、地域コミュニティの維持、計画推進のスピード感、教育環境の整備、教育の質の担保並びに向上、保育の質の確保、池袋保健所再移転の中止などについて質疑を行ったところである。

このような状況だからこそ、来年度予定している計画事業や継続事業においても、一旦立ち止まって、必要であれば、大胆に方向転換をすべき時である。

今回の審査内容が来年度の予算においてしっかりと反映されることを望む。

無所属元気の会

SDGs未来都市として、どのように関わり合いをもつて取組ができていくか、コロナ禍の中で「コロナであつたから」を全面的な言い訳とせず、いかに工夫して事業運営にあられたかを重視して審査した。

款別審査では、豊島区公式LINEの世代別の登録者数等について、区の施策のために可能な限り把握していくこと、各種検診、予防接種について、特に受けられる年齢が限定されている接種・健診についての周知・啓発の強化、空き家の利活用について、抑制税としての性格をもった空き家抑制税の創設の検討、新型コロナウイルス感染症対策緊急資金について、区内中小事業者・商店への信用保証料と利子の全額豊島区負担についての周知、毎年約1割誕生している低体重児の出生について、父母へのケア・フォロー制度の周知などを提言した。

誰一人取り残さない街、住み続けたい街を実現し、豊島区の未来の子どもたちへ思いをしつかりとパトントンタッチできるよう願ひ、令和2年度一般会計、3特別会計決算の認定に賛成する。